

ICTで 授業 をDX!

学年 小学校4年 教科 算数 など

ロイロノートでリーフレットを作ろう

使用するアプリケーション等
ロイロノート

単元・題材 伝統工芸のよさを伝えよう

本時の目標 調べたことを基に、必要な情報や文章構成を考えながらリーフレットに載せる文章の下書きをすることができる。(思考力、判断力、表現力等)

ICTを活用することで できること

- デジタルデータで管理することで、児童が成果物を紛失、汚損することがない。児童からプリントを回収・再配付する時間をなくすことができ、活動にすぐに取り組むことができる。
- ロイロノートの「提出物の共有」機能を使うことで、お互いの考えを全員で共有することができる。どう考えたらよいかヒントを知りたい、自分の考えに不安がある、異なる考えを知りたい、など思考に活用する情報を増やすことができる。
- ロイロノートでリーフレットを作成することで、写真などのレイアウトを工夫したり、文章構成を容易に変更したりすることができる。また、下書きがそのまま清書になることで、すべての児童が最初から仕上げる気持ちで意欲的に成果物に取り組むことができる。

DX前 (ICTを使っていなかった頃は・・・)

1 導入

- ① 本時のめあてを確認する。

めあて リーフレットにのせる文章の下書きをしよう。

2 展開

- ① 教科書の例を参考にさせながら、自分が伝えたい伝統工芸のよさが読み手にしっかり伝わるように意識しながら学習に取り組む。
 - 400文字程度で作文用紙に書く。
 - 調べたことをまとめたカードを見直したり、本を読み直したりしながら書く。
 - 理由や例と、伝えたいこととの関わりが分かるように書く。
 - 主語や述語を対応させたり、つなぎ言葉を使ったりして、読みやすい文章にする。

- ② 書いた文章を推敲する。

- 書いた文章を友達と読み合い、気付きを交流する。
- 誤字・脱字の他、よさを伝える理由や例がまとまりごとに書けているどうかを確認する。
- 友達からもらったアドバイスを基に、自分でも読み直しながら、修正するところを直す。

3 まとめ

- ① 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。
 - 振り返りをノートに書く。



DX!

DX後 (赤字はICT活用場面)

1 導入

- ① 本時のめあてを確認する。

- 前時に使用したロイロノートを準備しておく。

めあて

リーフレットにのせる文章の下書きをしよう。

2 展開

- ① 教科書の例を参考にさせながら、自分が伝えたい伝統工芸のよさが読み手にしっかり伝わるように意識しながら学習に取り組む。

- 400文字程度でロイロノートに書く。
- 調べたことをまとめたロイロノートを見直したり、本を読み直したりしながら書く。
- 理由や例と、伝えたいこととの関わりが分かるように書く。
- 主語や述語を対応させたり、つなぎ言葉を使ったりして、読みやすい文章にする。
- 考えている途中に、ロイロノートの共有機能で他の児童の考えを見てもよいことを伝える。

- ② 書いた文章を推敲する。

- 書いた文章を友達と読み合い、気付きを交流する。
- 誤字・脱字の他、よさを伝える理由や例がまとまりごとに書けているどうかを確認する。
- 友達からもらったアドバイスを基に、自分でも読み直しながら、修正するところを直す。

3 まとめ

- ① 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。

- 振り返りをロイロノートに書く。



前時に利用したロイロノートを活用しその確認することで、学習内容を思い出しやすくなる。



↑ 個々の児童がロイロノートで作成した文章。全員で共有することで、教師が児童の進捗状況を確認したり、児童が様々な文章から文章構成を考え直したりすることができる。



↑ 児童のリーフレット
清書のために、書き直す必要がなくなる。

授業者から (成果・課題・留意点)

- 写真を印刷して貼る必要がなくなるため、時間を短縮することができ、効率的にリーフレットを作成することができた。
- 下書きから清書という工程がなくなるため、その分の時間をじっくりとリーフレットを仕上げることができた。
- 端末で文章を作成することで、タイピングの能力が向上した。
- ロイロノートの共有機能の使い方には注意が必要である。早期に共有してしまうと、自力で文章を作成しようとせず、友達の書いた様々な文章を参考にしてからでないとなりがちで、取り組みが浅い児童が出てきてしまう恐れがある。